

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来予測が困難な社会を生き抜くために、グローバルな視点で、自らがアクションを起こし、社会をリードする人材を育成する学校をめざす。そのために新たな価値を創造する力、社会を生き抜く人間力、多様性を尊重する社会的包容力を養う。

1. めざすべき生徒像

- | | |
|--------------------------------------|---------|
| ①「人・社会・世界」の課題に気づき、解決しようとする志を持つ生徒 | 志す |
| ②幅広い教養を身につけ、知性を磨き、新たな価値を創造する生徒 | 創造する |
| ③社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる生徒 | 繋がる |
| ④以上のことを実現するために、己の将来を描き一歩踏み出すことができる生徒 | 描き、実行する |

2. めざすべき教職員集団

- | | |
|------------------------------------------|-----------|
| ①生徒・保護者に寄り添いながらも、新たな教育課題に対して果敢に挑戦する教職員集団 | 挑戦する |
| ②常に学びの姿勢を持ち、切磋琢磨する教職員集団 | 切磋琢磨する |
| ③他者理解に富み、アイデンティティを尊重する人間味あふれる教職員集団 | 人間味が豊かである |
| ④互いの持ち味を認め、多様な力を糾合するチーム力のある教職員集団 | チーム力がある |

2 中期的目標

1. 課題に気づき、解決しようとする志を持つ生徒を育成する。

- (1) 思考し、探究する力の育成：1年『産業社会と人間』、2、3年『総合的な探究の時間』、探究的学習の体系化

※卒業時の産業社会と人間と探求の学びを測るために学校教育自己診断「産業社会と人間・総合的な探究の時間・探求的な学びができた」生徒② (R2:47.2%、R3:78.0%、R4:84%) における3年生の肯定的回答を、R5は85%以上とし、R7には90%以上とする。

- (2) 自尊心の醸成を促し、「自主自律」を基本に己を律する力の育成

※遅刻者数の一層の低減を行い、R5にR4以下、R7年度に2500回以下にする。(R2:2647回、R3:2697回、R4:3847回)

※学校教育自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いている。」生徒③ (R2:62.6%、R3:74.5%、R4:83%) での肯定回答をR5は85%以上に、R7には90%以上に。「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる。」生徒④ (R2:56.2%、R3:59.7%、R4:66%) での肯定回答をR5は70%以上、R7には75%以上とする。

※学校教育自己診断「今宮高校で人として成長したと思う」生徒③における3年生の肯定感 (R2:90.1%、R3:87.8%、R4:91%) を、R7まで91%以上を維持する。

- (3) 国連が提唱するSDGs・ユネスコスクールを「ジブンごと」化し、アクションを起こす力の育成：自治会活動や産社・総探・課題研究を通じて、SDGsの17の目標のいずれかについて全校的な取組みを推進する。

※学校教育自己診断「本校は、ユネスコスクール・SDGsを推進している」生徒⑥ (R2:67.3%、R3:77.6%、R4:82%) ではR5は85%以上、R7には90%以上、

「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」生徒④ (R2:60.4%、R3:64.6%、R4:75%) では、R5に78%以上、R7には84%以上の肯定的評価にする。

2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学ぶ力を育成する。

- (1) ICT活用、授業アンケート、研究授業、授業評価をフィードバックし、教科毎に授業力を向上させ、進路実現に結びつく質の高い授業を生徒に提供する。

※学校教育自己診断「学ぶことの意味について考え、授業を大切にするようになった」生徒⑤ (R2:75.8%、R3:80.5%、R4:81%) をR5は83%以上、R7年度に90%以上の肯定的評価とし、学校教育自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な力が身につく」生徒⑥ (R2:53.7%、R3:57.3%、R4:68%) をR5は70%以上、R7に75%以上の肯定的評価とする。

- (2) 『考える力』、『まとめる力』、『伝える力』の育成：生徒が発表する機会・場の提供と生徒相互の取組みへの支援・育成

※総合の時間における「今高生の主張」、「ディベート」、「未来探究」、「ビブリオバトル」等のプログラムの改善

※学校教育自己診断「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくあった。」生徒⑫ (R2:85.1%、R3:88.5%、R4:95%) をR5には95%以上の肯定的評価とし、その後R7もそれを維持する。

- (3) 自らが学びへの高い志と意欲をもって学習に取り組む生徒の育成

※学校教育自己診断「家庭学習を毎日した」生徒⑧ (R2:27.0%、R3:27.2%、R4:34%) の肯定的評価をR5では40%以上にし、R7には50%以上とする。

- (4) 4技能をバランスよく配した英語の授業の推進とそれぞれのレベルでの英語表現力の向上

※(R4から1、2年生全員受験 R42年生:7.1%) 英検2級以上の合格者を2年生終了時にR5は20%以上とする。R7には40%以上とする。

3. 社会の多様性を認識し、「人・社会・世界」と繋がる力を育成する。

- (1) 国際感覚と国際交流力の育成：ユネスコスクール・SDGsに取り組み、多様な文化を理解する国際交流を促進する

※学校教育自己診断「本校は国際交流に力を入れている」生徒⑨ (R2:45.1%、R3:50.4%、R4:62%) を、R5では肯定感を65%以上、R7には70%以上とする。

- (2) 共生推進教室を中心に、「共に学び、共に育つ」インクルーシブ教育の推進を行う。

※学校教育自己診断「障がいがある人たちと『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった。」生徒⑬ (R2:63.7%、R3:69.1%、R4:86%) を、R5は90%以上の肯定評価とし、その後R7もそれを維持する。

- (3) 小中学校、地域、地元自治体と連携した防災活動を充実させる。

※学校教育自己診断「本校では、地震や火災の際の対応は知らされている」生徒⑭ (R2:51.2%、R3:67.8%、R4:72%) を、R5では75%、R7には80%以上の肯定的評価とする。

(4) 社会に開かれた学校づくりを推進し、地域貢献を進める。

ア) ホームページの充実、学校説明会、中学校訪問の充実を図り、入試倍率をR6入試は1.10倍以上を継続、R8入試は1.20倍以上を獲得する。

イ) 教養講座の充実と地域行事への参加を促進する。
 ※学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」生徒④(R2:44.7%、R3:61.8%、R4:73%)の項目を、R5では75%以上、R7には80%以上の肯定的評価とする。

ウ) PTA、同窓会、後援会との連携の強化
 ※学校教育自己診断「学校ではPTA活動は活発である」保護者③(R2:81.5%、R3:77.9%、R4:68%)の肯定的評価をR5では75%以上、R7には80%以上の肯定的評価とする。

4. 自分の将来を描き、そのための実行を進めるためのキャリア教育の充実

(1) 高・大・社を意識した系統的なキャリア教育の充実を通じて、進路実現の意識の醸成を行う。
 ※学校教育自己診断「希望進路や選択科目の指導はきめ細かく、適切に行われた」生徒⑨(R2:81.1%、R3:86.0%、R4:88%)をR5は90%以上継続、R7には93%以上の肯定的評価とする。

(2) 進路実現を可能にする学力の育成
 ※大学入学共通テストにおいて平均点以上を獲得する科目数を(R2:426科目、R3:339科目、R4:290科目)、R5は300以上、R7には500以上とする。

(3) 国公立及び有名私大(関関同立産近甲龍・早慶上・MARCH)合格レベルの学力育成を支援する情報提供と学習指導の充実
 ※京大・阪大・神大・大阪公立大を含め国公立大学への合格者数を(R2:27名、R3:18名、R4:19名)、R5は25名以上、R7には40名以上とする。
 ※関関同立+近の合格者の合計を(R2:128名、R3:136名、R4:130名)、R5は140名以上、R7には160名以上とする。

5. 教職員集団「チーム今宮」の育成

(1) ビジョン委員会－カリキュラムマネジメント委員会－運営委員会の活性化を図り、高大接続改革など新たな教育課題に挑戦し、伝統校としての魅力を持つ高校に改革するために、互いに切磋琢磨する教職員集団の育成を行う。
 ※学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性を高め、協力して教育活動を行っている。」教員④(R2:50.0%、R3:59.2%、R4:59%)を、R5は60%以上、R7には65%以上の肯定的評価とする。
 ※学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」教員⑤(R2:65.0%、R3:63.3%、R4:76%)を、R5は80%以上、R7には85%以上の肯定的評価とする。

(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上を図る。
 ※初年度に学校教育自己診断「本校の学習だけで、進路達成に必要な学力が身につく」生徒⑥(R2:53.7%、R3:57.3%、R4:68%)をR5は70%以上、R7には75%以上、学校教育自己診断「教え方を工夫するなど先生方は授業に熱心だった」生徒⑩(R2:76.9%、R3:80.7%、R4:84%)をR5は86%以上、R7には90%以上とする。
 ※授業アンケートの9項目平均を向上 授業アンケート9項目平均(R3:3.36、R4:3.33)をR5は3.40以上、R7には3.50以上とする。

(3) 情報共有を促進させ、ICTを有効活用できる教員の育成
 ※学校教育自己診断「本校は計画的に人材育成を行っている」教員④(R2:50%、R3:40.8%、R4:50%)を、R5は55%以上、R7には60%以上の肯定的評価とする。

(4) 仕事の平準化、合理化を推進し、「働き方改革」を行う。
 ※ストレスチェックの総合指数を(R2:105、R3:111、R4:102)、R5は100以下に、R7には98以下にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1. 高い志を持って己を鍛える力の育成	(1) 思考し、探究する力を育成 ア 「今宮志学」の再検討、体系化を行う。	(1) ア 25期生の探究学習をモデルとし、思考力・判断力・表現力等を育成する探究的学習要素を体系化する。	(1) ア 学校教育自己診断「産業社会と人「総合的な探究の時間」生徒⑩3年 [84%]の肯定的回答を85%以上とする。	(1) ア
	(2) 自尊感情の育成、自己を律する力の育成 ア 自己を律する力の育成 イ 自尊感情の育成	(2) ア 遅刻に表れる生徒の生活習慣の改善予鈴時間を3分早めることにより時間に余裕を持たせるようにする。 イ 教育相談活動の充実	(2) ア 遅刻総数 [3847回] R4以下にする イ 学校教育自己診断「先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる」生徒⑩ [83%]の肯定回答85%以上 「担任の先生以外にも、気軽に相談することができる先生がいる。」生徒⑩ [66%]の肯定回答を70%以上	(2) ア イ
	ウ 生徒の人的成長の促進	ウ 教育のあらゆる機会を捉えて、生徒の成長を促す	ウ 学校教育自己診断「本校に入学して人として成長したと思う」生徒⑩3年生 [91%]の肯定感を90%以上を維持する。	ウ

	<p>(3) ユネスコスクール・SDGs への取組み</p> <p>ア ユネスコスクール・SDGs に全校的に取り組む。</p>	<p>(3)</p> <p>ア ユネスコスクール・SDGs を、自治会をはじめ、PTA・有志などであらゆる機会を通じて取り組む。</p>	<p>(3)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校は、ユネスコスクール・SDGs を推進している」生徒③ [82%] を 85%以上とする。</p> <p>学校教育自己診断「自ら課題を発見し、自分の身の回りから社会を変革する力がついた」生徒④ [75%] の肯定感を 78%以上とする。</p>	<p>(3)</p> <p>ア</p>
<p>2. 幅広い教養を身に付け、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学ぶ力を育成する。</p>	<p>(1) 質の高い授業の提供</p> <p>ア 授業アンケートの活用及び研究授業などの活性化</p> <p>(2) 思考力・判断力・表現力等の育成</p> <p>ア 「主体的・対話的で深い学び」の授業の促進</p> <p>(3) 学習習慣、家庭学習の定着</p> <p>ア 家庭学習の定着</p> <p>(4) 英語 4 技能習得推進</p> <p>ア 4 技能をバランスよく習得</p>	<p>(1)</p> <p>ア・定量的授業アンケートに加え、生徒の自由記述による定性的アンケートを実施する。</p> <p>・各教科による研究授業、授業見学の促進 授業見学週間を設定</p> <p>(2)</p> <p>ア 「主体的・対話的で、深い学び」の教職員研修を実施し、深い学びを促進する授業を実践する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 新1年生では1学期に生活習慣チェックを行い、学習時間の確保を促す。</p> <p>(4)</p> <p>ア 英語授業において4技能をバランスよく配した授業の展開を行う。教諭による英検講習、教育産業による英検講習を開催する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「学ぶことの意味について考え、授業を大切にするようになった」生徒⑤ [81%] を 83%以上</p> <p>学校教育自己診断「本校の授業・講習等だけで、進路達成に必要な学力が身につく」生徒⑥ [68%] の肯定感を 70%以上とする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校教育自己診断「この学校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表することがよくあった。」生徒⑫ [95%] の肯定感を 95%以上を維持する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校教育自己診断「家庭学習を毎日学習した」生徒⑧ [34%] の肯定感を 40%以上とする。</p> <p>(4)</p> <p>ア 英語 2 級以上の取得生徒を 2 年終了段階で [R4:7.1%] 2 年生の 2 級取得者を 20%以上にする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <p>(3)</p> <p>ア</p> <p>(4)</p> <p>ア</p>
<p>3. 社会の多様性を認識し、「一人・社会・世界」と繋がる力を育成する。</p>	<p>(1) 国際感覚と国際交流力の育成</p> <p>ア 海外姉妹校との交流</p> <p>(2) インクルーシブ教育の推進</p> <p>ア 共生推進教室開設に向けた知的障がい生徒との交流の促進</p> <p>(3) 防災活動の促進</p> <p>ア 地域の小中学校、地元住民と連携した防災訓練</p> <p>(4) 社会に開かれた学校づくり</p> <p>ア 広報活動の充実</p> <p>イ 地域との連携促進</p> <p>ウ PTA、同窓会、後援会との連携の強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア コロナ禍を考慮し、国内でのプログラムを提供する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 共生推進教室在籍生徒への理解促進と共に学ぶ教育の理解促進を行い、なにもわ高等支援学校との自治会・クラブ・行事など交流の促進。</p> <p>(3)</p> <p>ア 小中学校、地元区民の防災計画を掌握する中で、連携のあり方を作成し、高校として防災に関してリーダーシップを発揮できるようにする。</p> <p>(4)</p> <p>ア</p> <p>・中学生参加行事の充実</p> <p>・HP の充実</p> <p>・パンフレットの見直し</p> <p>イ</p> <p>・浪速区を中心とする地域・企業との連携促進</p> <p>・教養講座の継続開催</p> <p>ウ</p> <p>年間行事について円滑な運営、連携に努める。</p> <p>プログラム案内をクラウドサービスを通じて行い、周知を徹底する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校は国際交流に力を入れている」生徒⑨ [62%] の肯定感を 65%以上とする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校教育自己診断「障がいがある人々と『共に学び共に育つ』大切さを学ぶ機会があった。」生徒⑬の肯定感 [86%] を 90%以上とする。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校で、地震や火災の際の対応は知らされている」生徒⑭ [72%] の肯定感を 75%以上とする。</p> <p>(4)</p> <p>ア R5 年度入試において第 3 回予備調査までに 1.10 倍以上。[1.15 倍]</p> <p>イ 学校教育自己診断「本校は、さまざまな地域の活動に参加・貢献している」生徒⑯ [73%] の肯定感を 75%以上とする。</p> <p>ウ 学校教育自己診断「学校では PTA 活動は活発であったか」保護者⑳ [68%] の肯定感を 75%以上とする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <p>(3)</p> <p>ア</p> <p>(4)</p> <p>ア</p> <p>イ</p> <p>ウ</p>

<p>進路実現をするためのキャリア教育の充実</p> <p>4. 高い志を持って、</p>	<p>(1) 系統的なキャリア教育の充実</p> <p>ア 高・大・社のトランジションを意識したキャリア教育の充実</p> <p>(2) 進路実現を可能にする学力の育成</p> <p>ア 講習の充実</p> <p>イ 自学自習システムの導入</p> <p>(3) 進学実績の向上</p> <p>ア 進学実績の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア 3年間の進路指導、進路行事を見直し、「キャリアアンカー」を育てる科目選択指導と連動したキャリア教育の推進</p> <p>(2)</p> <p>ア 進学講習の開催</p> <p>イ 教育産業の VOD 学習により自学自習を促進</p> <p>(3)</p> <p>ア 教育産業の模擬試験・学力学習実態調査・分析会などの活用を促進し、教職員の進学指導の力量の向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「希望進路や選択科目の指導はきめ細かく、適切に行われた」生徒⑳ [88%] の肯定感 90%以上を維持する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・イ 大学入学共通テストにおいて平均点以上を獲得する科目数を 300 科目以上にする。[290 科目]</p> <p>(3)</p> <p>ア 国公立 25 名以上継続 [19 名] 関関同立+近の合格数 140 名以上継続 [130 名]</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <p>(3)</p> <p>ア</p>
<p>5. 教職員集団「チーム今宮」の育成</p>	<p>(1) 切磋琢磨する教職員集団の育成</p> <p>ア 学校経営計画を意識した教育活動の推進</p> <p>(2) 教職員の授業力・キャリア教育力の向上</p> <p>ア 授業力の向上</p> <p>イ 生徒から信頼される授業</p> <p>ウ 観点別評価の実施</p> <p>エ キャリア教育の向上</p> <p>(3) 情報共有を促進させ、ICT を有効活用できる教員の育成</p> <p>ア クラウドサービス、トップページを活用した情報共有</p> <p>イ GIGA スクール構想に基づく ICT の活用の促進</p> <p>(4) 「働き方改革」の促進</p> <p>ア 仕事の平準化・合理化の促進</p>	<p>(1)</p> <p>ア 高大接続改革・新学習指導要領・観点別評価の実施・ICT の活用・共生推進教室の設置など、新たな教育課題に対して、学校経営計画を意識し、切磋琢磨する教職員集団の育成</p> <p>(2)</p> <p>ア 授業アンケート及び自由記述結果を活用した教科での検討会の実施。</p> <p>イ すべての授業での満足度が高い内容を提供する。</p> <p>ウ 新学習指導要領における観点別評価の導入に向けて、各教科で評価の在り方を検討し、試行・実施する。</p> <p>エ 高・大・社のトランジションを意識し、「イベント主義」に陥らない系統的で計画的なキャリア教育を推進する教職員集団の育成</p> <p>(3)</p> <p>ア 校内での共有ツールとして学校トップページの活用を構築し、情報伝達や緊急用にクラウドサービスを活用</p> <p>イ 新たなプラットフォームの導入と活用実践について研修を行う</p> <p>(4)</p> <p>ア やりがいをもって業務を行い、負担を軽減する。教育庁の推奨する ICT 化による業務効率化を年度当初より実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校がめざす学校像を実現するために、教職員は同僚性をたかめ、協力して教育活動を行っている。」教員㉒ [59%] の肯定感を 60%以上にする。</p> <p>学校教育自己診断「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている」教員㉓ [76%] の肯定感を 80%以上にする。</p> <p>(2)</p> <p>ア 学校教育自己診断「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」教員㉔ [98%] の肯定感を 95%以上を継続する。</p> <p>イ 授業アンケートの 9 項目平均を 3.40 以上とする。[3.33]</p> <p>ウ 学校教育自己診断「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」教員㉕ [87%] の肯定感を 90%以上とする。</p> <p>エ 学校教育自己診断「大学について理解することができた。」生徒㉖ [88%] の肯定感を 90%以上を維持する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校教育自己診断「本校は計画的に人材育成を行っている」教員㉗ [50%] を 55%以上にする。</p> <p>イ 学校教育自己診断「学校は ICT 環境整備を行っている」生徒㉘ [88%] の肯定感を 90%以上</p> <p>(4)</p> <p>ア ストレスチェック総合指数を 100 以下にする [102]</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <p>イ</p> <p>ウ</p> <p>エ</p> <p>(3)</p> <p>ア</p> <p>イ</p> <p>-</p> <p>(4)</p> <p>ア</p>